豊郷町まち・ひと・しごと創生

総合戦略

平成 28 年 2 月

豊郷町

目　次

第2部　総合戦略 1

序章　豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略について 2

（１）基本的な考え方 2

（２）まち・ひと・しごとの創生に向けた政策５原則 2

（３）重要業績評価指標（KPI）を重視した目標設定 2

第１章　豊郷町総合戦略策定にあたって 3

（１）豊郷町総合計画との関係 3

（２）計画の期間 3

（３）豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会 3

第2章　課題の整理と基本目標 4

（１）国の総合戦略「基本目標」に沿った現状と課題の整理 4

①　地方における安定した雇用を創出する 4
②　地方への新しいひとの流れをつくる 5
③　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 7
④　時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する 8

（２）目指すべき将来の方向 10

①　特産物や「ひと」を活かし、農業を核に産業の振興を図る 10
②　定住化・転入を促進し、町への人の流れをつくる 10
③　豊郷での結婚・出産・子育てを支援する 11
④　資源を活かして人々の交流を図り、安心な暮らしづくりを進める 11

（３）豊郷町総合戦略の基本目標 13

第3章　具体的施策と数値目標 14

（１）施策の体系 14

（2）基本目標1：特産物や「ひと」を活かす産業振興 16

① 基本的な方向 16

② 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI） 16

（3）基本目標2：豊郷町への人の流れをつくる 18

① 基本的な方向 18

② 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI） 18

（4）基本目標3：豊郷で結婚・出産・子育てする人を支援する 21

① 基本的な方向 21

② 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI） 21

（5）基本目標4：資源を活かした交流と、いきいき安心な暮らしづくりを進める 24

① 基本的な方向 24

② 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI） 24

第4章　豊郷町総合戦略の推進体制 27

（1）PDCAサイクルの導入 27

（2）地域間の連携推進 27

（3）施策の進捗管理体制と外部有識者の参画 28

（4）進捗状況の点検 28

資　料 29

第２部　総合戦略

序章　豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

（１）基本的な考え方

「豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「豊郷町総合戦略」）は、豊郷町における人口減少と地域経済縮小の克服を目指すもので、国が 2014（平成 26）年に策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して策定します。

わが国が直面している人口減少問題は、国だけでなく、都道府県、市町村が一体となり長期に渡って取り組まなければ対応できません。社会全体が次世代にとって暮らしやすいものとなるよう、人口減少、少子高齢化への対策を講じることが課題とされています。

しかし、これらの問題は地域によって状況や原因が異なるものであり、豊郷町の総合戦略は、町の地域特性を反映し、強みを活かしたものでなければなりません。このことから、豊郷町人口ビジョンで示した町の現状、人口の将来展望や、別途実施した町民・町内事業所アンケート等をもとに課題を整理し、戦略を策定することとします。

（２）まち・ひと・しごとの創生に向けた政策５原則

国は人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、次の５つの政策原則を掲げています。豊郷町においても、この政策５原則に基づき、関連する施策を展開することが必要です。

①自立性

構造的な問題に対処し、地方自治体、民間事業者、個人等の自立につながる施策にする。

②将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

③地域性

各地域の実態に合った施策を受け手側の視点に立って支援する。

④直接性

最大限の成果をあげるため、ひとの移転、しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤結果重視

PDCA サイクルの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

（３）重要業績評価指標（KPI）を重視した目標設定

国の「総合戦略」では、政策の「基本目標」を明確に設定し、それに基づく適切な施策を内容とする「政策パッケージ」を提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組み（PDCA サイクル）を確立しています。

豊郷町においても、実現すべき重要業績評価指標（KPI）を重視した目標を設定します。

第１章　豊郷町総合戦略策定にあたって

（１）豊郷町総合計画との関係

豊郷町では町民と行政が基本理念やまちの将来像を共有し、まちづくりを総合的かつ効果的に推進するための指針として第４次豊郷町総合計画を定めています。総合計画において掲げられた３つのまちづくりの理念「やすらぐまち」「元気なまち」「つながるまち」は地方創生の主旨にも合致し、定住人口を増やす取り組みなど、総合戦略の考え方にもつながります。そのため、総合計画に基づき推進してきた事業のいくつかは、総合戦略においても施策として位置づけられています。

第４次豊郷町総合計画　2009（平成 21）～2018（平成 30）年度

整合　／　一部継承

豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略　2015（平成 27）～2019（平成 31）年度

将来展望を反映

豊郷町人口ビジョン（2060 年までの将来展望）

（２）計画の期間

「豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の期間は 2015（平成 27）～2019（平成 31）年度の５年間とします。

年度	～	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	～
豊郷町まち･ひと･しごと創生総合戦略		5年間の計画（2015～2019）						
豊郷町総合計画	第4次（～2018）					第5次（2019～）		

（３）豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会

策定にあたり、専門的な見地、様々な立場からの助言・提言を反映するため「豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会」を設置し、講ずべき施策の基本的方向、具体的な施策と、施策の重要業績評価指標（KPI）の検討を行いました。

第２章　課題の整理と基本目標

（１）国の総合戦略「基本目標」に沿った現状と課題の整理

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2014 年 12 月 27 日閣議決定）では、４つの「基本目標」が示されています。ここで、国の基本目標に沿って、人口ビジョン、アンケート等から豊郷町の現状と課題を分類・整理します。

●参考：国のまち・ひと・しごと創生総合戦略が定める基本目標
基本目標　①地方における安定した雇用を創出する
基本目標　②地方への新しい人の流れをつくる
基本目標　③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本目標　④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

①　地方における安定した雇用を創出する

雇用・産業
人口動向・現状分析から
●**町内で働く人は比較的高齢** 男女別・年齢階級別産業人口では、男性は 30 代、次いで 50 代が多く、女性は 50 代、次いで 40 代が多い。2010 年生産年齢人口（15～64 歳）は 4,621 人で総人口の 61.1%だが、町内で働く人は生産年齢（15～64 歳）の中で高齢の方に比重があり、相対的に町内で働く若年層が少ないことになる。 「農業」は交代指数が低く、振興を図る施策や担い手の確保が課題となる。
アンケートから
●**町民の就労希望分野と町内事業所の状況はほぼ合致** 町民の就労希望分野は「製造業」が 26.1％で最も多く、「医療、福祉」「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」と続く。就業者数が多く、雇用の期待できる事業分野と町民の希望はほぼ合致する。事業所アンケートの今後の事業予定は「現状維持」66.7%、「拡大する見込み」26.7%と悪くなく、「現在の場所で事業を続けたい」が 75.6%を占めている。
●**事業所が重要視する産業振興策は「人材」「企業誘致」「新分野・販路拡大支援」** 事業所が町の産業振興策として重要と考えているのは「人材の確保や人材育成への支援」が 33.3%で最も多く、「新規に立地する企業や店舗の誘致」31.1%、「新事業分野への進出や販路拡大のための取り組みへの支援」28.9%となっている。

推進委員会ご意見から
産物を作ってくれる「人」こそが大事。産物だけでなく、それをつくる「人」（農業の担い手）に対する支援が必要だろう。（第２回推進委員会）
農業の担い手の互助制度（基金を積み立てて、困った時に助けあう）の設立について、町ができることはないか検討してほしい。（第３回推進委員会）

② 地方への新しいひとの流れをつくる

転入・転出（社会増減）
人口動向・現状分析から
●若者が就職期に転出する 男性は、20～24 歳→25～29 歳、15～19 歳→20～24 歳の時期に転出。大学卒業または就職、高校卒業後の大学等進学または就職に伴う転出が考えられる。女性は、15～19 歳→20～24 歳で転入。豊郷病院附属准看護学院の入学に伴うものが考えられるが、その後 20～24 歳→25～29 歳、25～29 歳→30～34 歳では多く転出が起こる。
●男性は町外へ通勤、女性は豊郷町に通って来る 昼夜間人口比率は「0.97」。男性は町外へ通勤する人が多く、女性は町外から豊郷町に通勤する人も多い。暮らしやすさや子育て支援がより向上し、かつ周知されれば、町内に職場がなくても豊郷町に居を構える男性や、職場の近くとなる豊郷町で子育てと仕事の両立を目指す女性の増加も考えられる。
●転入は県内から、転出は県外へ、という傾向 彦根市、東近江市、愛荘町との間で人口移動が多い。2014 年、長浜市、近江八幡市、草津市、高島市、日野町、甲良町、多賀町から転入超過。県外との移動はすべて転出超過である。
●近年の転入はファミリー。宅地開発が今後も進むかは不確定 男女とも、35～39 歳→40～44 歳より上の年齢層では、ほぼ転入超過。0～4 歳→5～9 歳も転入超過であり、ファミリーでの転入と思われる。2005 年以降の転入は町内の宅地開発によるものとも考えられるが、宅地開発が今後継続的に実施されるかは不確定である。

アンケートから
●就労場所まで1時間未満なら豊郷町に住むという選択 町外での就労が48.5%。町外の就労場所は「その他県内」32.6%、「彦根市」29.8%、「愛荘町」14.1%となっている。 通勤・通学等に要している時間は1時間未満の回答で83.5%、通勤・通学で許容できる時間は、1時間未満の回答で77.6%を占める。 通勤可能であれば、町外で仕事をしていても居住場所として豊郷町を選択している状況がうかがえる。その選択を後押しするために必要なのは、暮らしや交通の利便性と考えられる。
●今後の居住継続の意向は高い 居住年数は、「50年以上」が23.9%で最も多く、30年以上の計で56.2%と過半数である。居住歴は「生まれてからずっと住んでいる」の34.1%に対し、「県内の他市町村から転入」33.6%をはじめ、「一時的に転出したことがある」「県外から転入してきた」を加えた他地域からの転入が計63.0%となる。 移住者は多いものの、今後の居住継続の意向では「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」で計76.8%と、居住継続の意向が高い。
●暮らしやすいと感じる点 暮らしやすいと感じる点は、「生まれ育った土地だから」39.8%、「自然環境が豊か」30.7%、「買い物をする店の多さ、近さ」28.0%、「医療、福祉サービスが充実している」24.9%、「安全、安心なまちだから」16.9%。 20代前半は「自然環境」「近所づきあい、地域活動」「生まれ育った土地」、20代後半は「教育・保育サービス」、70歳以上は「医療・福祉」の率が高い。
●暮らしにくいと感じる点 暮らしにくいと感じる点は、「交通の便が悪い」42.9%、「買い物をする店が少ない、遠い」24.5%、「仕事がない」21.1%、「通勤、通学がしにくい」19.1%。 19歳以下は「仕事がない」、20代前半は「買い物をする店が少ない、遠い」、30代前半は「通勤・通学の不便」「安心・安全と感じられない」「教育、保育サービスの不足」、40代後半は「自然環境」「交通の便」「医療、福祉の不足」「家賃、土地の価格」の率が高い。
推進委員会ご意見から
町に大学はないので町外の大学へ進学。卒業しても町に仕事が見つけられず、そのまま町外で就職する。そうなると町へ戻らない、というのが実態だろう。（第1回推進委員会）
企業誘致や産業振興による転入促進は難しい面もあるだろう。空き家活用（低料金貸出の優遇措置）や助成金で転入増を図ることを考えてはどうか。（第3回推進委員会）

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結　婚
人口動向・現状分析から
●**婚姻率は全国を少し下回る** 婚姻率は 2004 年から 2009 年まで増加傾向。近年は上下動を繰り返し、2013 年の婚姻率は 4.73。2014 年における日本国内の婚姻率は 5.2 でそれを下回る。
アンケートから
●**結婚の意向は高く、支援の希望は経済面・住居** 未婚者は「いずれ結婚するつもり」が 50.3%と結婚の意向が高い。 未婚の理由は「結婚したいと思える相手がいない」41.5%、「精神的に自由でいられる」21.8%、「まだ若すぎる」20.7%など個人の主観・価値観によるものも多い。 結婚支援の要望では「安定した雇用の支援」43.6%、「若い夫婦への住まいの支援」37.2%、「結婚祝い金などの経済的支援」29.7%、「婚活イベントなど出会いの場の提供」19.5%となり、住まいや経済的支援を望む声が多い。

出産・子育て（自然増減）
人口動向・現状分析から
●**出生率は、他地域と比べて低い水準ではない** 子ども女性比（CWR）は、1980 年から 2000 年まで減少、2005 年からは上昇。 2008 年→2012 年の期間の合計特殊出生率は 1.76。滋賀県内自治体で第 3 位。同時期の全国の数値 1.38 も大きく上回っている。現状は他地域と比べて低い水準ではない。
●**近年の出生の多さは一時的である可能性** 2005 年からの子ども女性比の上向きは、豊郷町の団塊ジュニア世代の女性が出産のピークを迎えたとも考えられ、今後継続的に子ども女性比が上向くかは不確定である。
アンケートから
●**子どもを持つことを希望している** 18 歳から 50 歳未満の回答者において、現在の子どもの数は平均 0.95 人、将来持ちたい子どもの数は平均 1.84 人となっている。条件が整えば現状以上の子どもを持つことを希望していると思われる。
●**課題は経済面と子育て支援** 理想的な子どもの数の実現で課題になることは「子育てや教育にお金がかかりすぎる」34.7%、「子どもを預ける施設が整っていない」13.9%、「年齢的な問題」11.1%、「子育てを手助けしてくれる人がいない」9.1%となっている。

推進委員会ご意見から
医療費補助はごく普通のことと思っていたが、他地域の人からは「豊郷は医療費無料でいいよね」とよく言われる。医療が無料というのは大きな魅力。（第１回推進委員会）
豊郷町の福祉の助成や子育て支援など優れた点が、町外の人にはわからない。町で子育てする人を増やすためには、町外への PR は大事である。母親の口コミパワーも大きい（第 2 回推進委員会）

④ 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

暮らし・世帯・コミュニティ
人口動向・現状分析から
●世帯規模の縮小 世帯数は 1997 年の 2,148 世帯から 2014 年の 2,803 世帯へと増加、世帯当たりの人員は 3.33 人から 2.63 人へと減少、世帯規模が次第に小さくなっている。 世帯人員別で最も多いのは１人暮らしの世帯で全体の 25.5%、次いで 2 人の世帯 23.7%、4 人の世帯 18.6%、３人の世帯 18.1％である。
アンケートから
●重要だと捉えられている事業やサービス 「子育て世代への税金優遇や助成」が 46.0％で最も多く、「福祉医療費の助成」37.0%、「保育所等子育て支援の充実」34.4%、「高齢者福祉の充実」32.3%、「企業（雇用先）の誘致」31.8%となっている。
●その他に記入された要望 婚活／琵琶湖と何らかのコラボ／バス、電車など交通面の充実／身の丈に合ったサービス／WEB での情報提供／高齢者に対する教育／農業の担い手の支援／マナー学習や挨拶がしっかりできるなど、他の学校に無いような学習を組み込み教育の充実をアピール／など
推進委員会ご意見から
人口定住のための生活機能の確保、住民福祉、地域振興は、圏域全体での役割分担や自立圏形成の取り組みも重要。（第１回推進委員会）
移住（転入）促進については、周辺地域との人の取り合いに陥るようなことではなく、地方創生の主旨にある大都会からの移住というように、圏域全体で、その外から人を呼び込むような考え方も必要。（第２回推進委員会）
子育てを手伝う人がいないというアンケート、世帯人員が少ないというデータ。昔は祖父母がいっしょに暮らし子どもを見ていたが、今はそれがない。老人会では 3 世代同居などを薦めている。子育ての手伝いが老人会でできないかとも考えている。（第１回推進委員会）

お年寄りにとって、孫に関われるということはいきがいにもつながると思う。（第２回推進委員会）

観光・交流人口
人口動向・現状分析から
●**観光資源開発・整備の必要性** 年間の延観光入込客数は 40,900 人。その約 98%は目的が「博物館・美術館等」で、「歴史」は 2%となっている。一定の観光客は訪れているが、その目的は町の観光資源のうちの限られた部分に留まっている。観光の振興は経済効果も然ることながら、交流人口増による町の認知度アップも効果として期待できることから拡充が課題となる。
アンケートから
●**観光資源の活用と町民の理解** 自由意見では、「けいおん」関連に様々な意見がみられる。町民自体が資源に気づいていないという意見もあり、観光関連では町民の理解・認知のさらなる向上が必要と考えられる。 ○「けいおん」については、町民が町の取組をどうとらえているのか把握すべき。（男性・35～39 歳） ○町の良さを町民自身がもっと認識すべきでは。私は最近になって伊藤忠兵衛さんの屋敷へ行ってその偉業に気づいた。他にも、町の文化的な財産が多くあると思う。素晴らしいと感じることをもっと共有してもよいのでは？（女性・60～64 歳） ○意外と伊藤忠などの事は知られていないので残念。旧校舎群のマニアの話題が先行しているので。（女性・45～49 歳） ○何をしてもらってもいいけど、豊郷小学校を使ってのイベントを規制してほしい。豊小＝けいおんというイメージ、恥ずかしい。（女性・25～29 歳） ○ヴォーリス小学校や小学校のイベントに合わせ祭りを増やし、その際公営住宅のあっせんや就職のあっせんをする。（男性・50～54 歳） ○豊小でイベントがあるが、入場料など安くても徴収して他に色々と役立つ事を考えれば良い。他府県から多くの人が来るので何か楽しめる施設が出来ればいい。就労にもつながる。（女性・55～59 歳）
推進委員会ご意見から
豊郷町には、旧豊郷小学校だけでなく歴史やロマンという遺産もたくさんあるので、それらを残す事業も考えてはどうか。（第２回推進委員会）

（２）目指すべき将来の方向

現状分析とアンケートからの課題整理をふまえ、目指すべき将来の方向を提示します。

① 特産物や「ひと」を活かし、農業を核に産業の振興を図る

● 農産物を活かした産業振興

農業は、食料生産の役割を果たすとともに、緑あふれる豊郷町の風景をつくり出している産業でもあります。特産物「坊ちゃんかぼちゃ」をはじめとする野菜等、農産物の生産奨励や加工品のイメージアップ・高級化、町産の農産物の消費拡大などを目指し、町内の農業の振興を図ることが必要です。

● 「ひと」を活かした産業振興

高齢化や後継者不足による担い手減少を防ぐため、農業の担い手を支援する施策や、第１次・第２次・第３次産業の枠を超えて、創業を目指す人への支援を行うなど、町内の産業に関わる「ひと」を育てることが必要です。

② 定住化・転入を促進し、町への人の流れをつくる

● 豊郷町で長く暮らせる環境の整備

現在でも高い居住継続の意向がありますが、次世代も、あるいは年齢を重ねてからも引き続き豊郷町で暮らしたいという意識が持てるよう、高齢者の外出支援や、地域全体で高齢者を支える事業を進めます。また、３世代の同居あるいは近居を奨励し、若い世代の転出抑制、町内での定住化、さらに進学・就職で町を出た人のＵターンを促進することも重要です。

● 豊郷に住もうとする人を支援する

豊郷町は、町外の就業場所まで通いやすいという地理的な優位性や、「自然環境」「医療・福祉サービス」「教育・保育サービス」など町民から評価の高い住環境の良さを持っています。利用可能な空き家の調査や、住宅の改修への補助を行うなど、町内に住もうとする人を支援することが必要です。

● 町の内外に豊郷町のファンをつくる

町外に対しては、まず豊郷町を見てもらう、知ってもらうというという側面から、観光資源の活用による観光振興、それによる交流人口の増加を図ることは重要と考えられます。また、町民自身が町の魅力を再発見できるような取り組みも必要です。

豊郷町には、江州音頭発祥の地、多くの近江商人を輩出した地といった歴史的、文化的な資産があります。これらを町の魅力としてさらに掘り起こし、内外に広く PR して町のファンをつく

り、「暮らす場所」としての町のイメージアップ、交流人口の増加からの定住化や転入の促進につなげていきます。

③ 豊郷での結婚・出産・子育てを支援する

● 町で結婚する人を応援する

未婚者は結婚の意向が高く、多くがいずれ結婚したいと考えています。個人の結婚について直接的に町が関与することは難しい面がありますが、結婚した人を、「祝い金」をはじめとする様々な形のお祝いで応援し、町での結婚を後押ししていくことが考えられます。

● 理想とする子どもの数を持てる環境を整える

理想的な子どもの数を実現するために、多くの人が課題としていた経済的な理由や身体的な理由に対し、町として支援を行い、出生数の向上を目指します。

● 子育て支援の充実で「子ども・子育て 陽だまりのまち」を実現する

既に実施している医療費や保育料、給食費の軽減などの経済的支援はもとより、親が安心して子どもを産み育て、いきいきと働くことができるよう、学童保育や子育て支援センターなど子育てに関する多様なニーズに対応する環境づくりとして 2015（平成 27）年度より始まった、本町の子ども・子育て支援事業である「豊郷町子ども・子育て陽だまりプラン」を着実に実行していかなければなりません。

● 子どもの教育を充実させる

豊郷町は、現在も教育環境が整い、病院もあって、安心して子育てができる町ですが、明日を担う子どもたちを地域の宝として育むことは町の将来にわたる重要な要件であり、長期的な展望をもって力を注いでいく必要があります。

豊郷町に関わりのある企業との連携や、町の歴史に裏付けられたプログラム、読書活動の推進など町独自の事業などにより、他の市町では得られない教育の充実を図ることが重要です。

④ 資源を活かして人々の交流を図り、安心な暮らしづくりを進める

● 豊郷ならではの体験を提供する

誇るべき文化である江州音頭の普及啓発を進める活動や、町の「歴史」「文化」などの財産を未来に伝えるための町史編纂、子どもたちが特産物の生産現場を体験できる場をつくることなどにより、町ならではの体験を提供していきます。特に江州音頭については、子どもや若い人が興味を持ち、関わり、参加して、次世代への文化継承ができるような取り組みを進めることが大切です。

● ふれあい、楽しむ場をつくる

いきがい協働センターなど高齢者や世代間の交流の拠点となり得る施設を活用したり、野菜や花の収穫を核とした新しいイベントをつくることなどにより、町民同士がふれあい、楽しめる場をつくっていきます。これらにより魅力的なコミュニティの醸成が進めば、定住化、移住の促進にもつながると考えられます。

● 安全・安心な暮らしをつくる

現在も保健、福祉、医療のサービス基盤は満足度の高い状況ですが、さらに、地域の防災力の向上や、地域全体で高齢者の暮らしを支援する施策を進め、「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」として内外から豊郷町が認知されるよう努めます。

（３）豊郷町総合戦略の基本目標

以上の方向性から、国の基本目標に対し、豊郷町独自の基本目標を以下のように定めます。

豊郷町の基本目標１
特産物や「ひと」を活かす産業振興

※国の基本目標1　地方における安定した雇用を創出する

豊郷町の基本目標２
豊郷町への人の流れをつくる

※国の基本目標2　地方への新しいひとの流れをつくる

豊郷町の基本目標３
豊郷で結婚・出産・子育てする人を支援する

※国の基本目標3　若い世代の結婚･出産･子育ての希望をかなえる

豊郷町の基本目標４
資源を活かした交流と、いきいき安心な暮らしづくりを進める

※国の基本目標4　時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

第３章　具体的施策と数値目標

（１）施策の体系

基本目標１　特産物や「ひと」を活かす産業振興

施策	事業
1-1　農業の振興	農業の担い手支援事業
	地元農産物生産拡大事業
	耕作放棄地対策
	農業生産基盤の整備
1-2　町の特性を活かした産業振興	特産物振興事業
	起業家育成事業

基本目標２　豊郷町への人の流れをつくる

施策	事業
2-1　定住化の促進	外出支援事業（すまいるたうんばす運行事業）
	地域支援事業（包括的支援事業）
	3 世代同居促進事業
2-2　転入の促進	空き家対策事業
	安全安心住宅支援補助事業
	他府県・他市町からの転居促進
2-3　豊郷のファンづくり	地域資源を活用した観光振興事業
	ふるさと納税推進事業
	近江商人宿泊研修事業
	地域カレッジ開催事業
	豊郷町PR事業

基本目標３　　豊郷で結婚・出産・子育てする人を支援する

施策	事業
3-1　結婚の支援	結婚支援事業
	出会いの場の創出
3-2　出産の支援	特定不妊治療費等助成事業
	妊娠・出産・子育てに対する相談・支援事業
3-3　子育て世帯の支援と子育て環境整備	学童保育運営事業
	福祉医療費助成事業
	乳児生活応援助成事業
	小中学校入学助成事業
	給食費助成事業
	子育て支援センター運営事業
3-4　子どもの教育の充実	学ぶ力育成推進事業
	小学校外国語活動推進事業
	「本大好き　豊郷ッ子」推進事業（子ども読書活動推進事業）
	部活動推進事業
	先人の遺徳を学ぶ事業

基本目標４　　資源を活かした交流と、いきいき安心な暮らしづくりを進める

施策	事業
4-1　「豊郷ならではの体験」の提供	江州音頭普及啓発事業
	町史編纂事業
	いきがい協働センター「子ども職業体験プログラム」
4-2　ふれあい、楽しむ場の創出	いきがい協働センター利用事業
	とよさと収穫祭
4-3　安全・安心な暮らしづくり	地域防災力向上事業
	老朽化施設エコ修繕事業
	高齢者あったか給食事業
	生きがいデイサービス事業
	地域見守り事業
	キャラバン・メイト、サポーターの拡充
4-4　地域の利便性向上	愛のりタクシー運行事業

（２）基本目標１：特産物や「ひと」を活かす産業振興

① 基本的な方向

○農業は豊郷町の原風景を形づくり、自然環境の保全にも重要な役割を持っています。高齢化や後継者不足による農業の担い手不足を防ぐため、就農者を支援する等の取り組みにより農業の振興を図ります。

○6 次産業化を見据えた特産物の高付加価値化や、町民のチャレンジ精神を応援する起業家育成事業で、対応の急がれる農業を中心に、「ひと」を活かした産業の振興を図ります。

数値目標		
農業の担い手数 （事業者数）	21 人（H26）→25 人（H31）	町調査
就農者の数	344 人（H27）を維持する（H31）	町調査

② 具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

1-1　農業の振興

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
農業の担い手数 （事業者数）	21 人（H26）→25 人（H31）	町調査
就農者の数	344 人（H27）を維持する（H31）	町調査

施策名	施策の概要
農業の担い手支援事業	現在豊郷町には、若い農業の担い手が増えつつある。国や県の補助だけでなく、町独自の補助金で支援することにより、農業就労支援を行い、担い手を支援する。 直接的な補助金だけではなく、担い手の互助制度設立など担い手の自助努力に対する町からの支援も検討する。
地元農産物生産拡大事業	町産の農産物消費拡大を目指して、豊郷町内の生産出荷者等が実施する事業に対して補助金を交付する。 対象は、コメ消費拡大推進、地元農産物活用メニュー開発、加工品開発支援、小中学生との交流推進。

耕作放棄地対策	農地中間管理機構を、地域の中心となる担い手に農地が集積される場合、協力者に対して農地集積協力金を交付する。現「農地中間管理事業」の継続。
農業生産基盤の整備	農業農村整備事業などの推進を通じて土地の利用集積や集落営農の育成等を行う。

1-2　町の特性を活かした産業振興

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
野菜出荷額	２千万円（H26）→３千万円（H31）	町調査

施策名	施策の概要
特産物振興事業	本地域の特産物である「坊ちゃんかぼちゃ」や野菜等の生産を奨励し、加工品等のパッケージの統一、高級化で、地域ブランド化を進め、町内農業の振興を図る。
起業家育成事業	創業に向けて具体的な行動計画を有する者等を対象として講座を実施する。受講することで、実際の創業に結びつくようなカリキュラムの内容とし、町民のチャレンジ精神を支援する。

（３）基本目標２：豊郷町への人の流れをつくる

① 基本的な方向

〇豊郷町では就労に関連して若年層の転出がみられますが、住宅の開発によるファミリー層の転入も続いてきました。町外で就労する場合でも、医療・福祉・環境面で優位性のある豊郷に暮らすという選択を後押しするため、高齢になっても暮らしやすい環境整備、住居の確保や住宅改善への支援などにより、定住化及び転入の促進を図ります。

〇暮らす場所として選択されるためには、町の魅力を町外にアピールする「豊郷町のファンづくり」も重要です。様々な取り組みで交流人口（町を訪れる人）を増加させ、定住化及び転入の促進につながる人の流れをつくり出していきます。

数値目標		
社会増減数	年平均 12 人増を維持する（H27～H31）	住民基本台帳

② 具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

2-1　定住化の促進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
社会減数	年平均 302 人減に留める（H27～H31）	住民基本台帳

施策名	施策の概要
外出支援事業 （すまいるたうんばす運行事業）	地域と町内医療機関や大型商業施設等への高齢者や障がい者等の外出支援を行う。
地域支援事業 （包括的支援事業）	高齢者の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健･医療･福祉サービス機関または制度の利用につなぐ等の支援を行う。
３世代同居促進事業	３世代同居ないし近居を促進することで、児童虐待問題（早期発見）、空き家問題等の解消を図り、移住者の増加、転出者の減少へつなげる。

2-2　転入の促進

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
社会増数	年平均 314 人増を維持する（H27～H31）	住民基本台帳

施策名	施策の概要
空き家対策事業	町内空き屋の状況調査を行い、利用可能な空き家と移住希望者との結びつけを行う。
安全安心住宅支援補助事業	町内施工業者による住宅の改修工事等を行った者に対し、その経費の一部を補助する。
他府県・他市町からの転居促進	他府県・他市町からの転入者に対し、助成金や空き家の低料金での貸し出しなど住居への優遇措置を行う。

2-3　豊郷のファンづくり

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
観光入込客数	７万人（H25）→９万人（H30）	町調査

施策名	施策の概要
地域資源を活用した 観光振興事業	旧豊郷小学校や江州音頭発祥の地であることをはじめとした町内観光資源を有効活用し、観光振興を図る。 観光拠点の無料 Wi-Fi 整備や観光案内アプリなど受け入れ強化策、旧豊郷小学校の記録フィルム編集と広告への活用、近江商人観光資源化のための調査などを進める。
ふるさと納税推進事業	ふるさと納税のお礼として、町内産品等を発送し、町内産業の振興を図るとともに、豊郷町の知名度向上を図る。
近江商人宿泊研修事業	町内で宿泊し町への理解をより高めてもらうよう、宿泊型体験学習のプログラムを開発し実施する。
地域カレッジ開催事業	町民の教養と知識の高揚を図るべく「地域カレッジ」を開校して講座を開催する。参加対象は、広く町民の他、在勤者、他市町から受講者募集を行う。

豊郷町ＰＲ事業	町内外の方々に豊郷町を知ってもらうため、江州音頭や観光情報、町で実施している各種助成制度、実施事業等をホームページ等の活用によりPRする活動に、全庁をあげて取り組む。

（４）基本目標３：豊郷で結婚・出産・子育てする人を支援する

① 基本的な方向

○町民アンケートでは未婚者の結婚の意向が高いにも関わらず、婚姻率は全国平均を下回っています。結婚する人への経済的支援やお祝いで、町内での結婚を後押しします。

○従来の出産・子育て支援に関わる施策を今後も確実に実行し、さらに充実を図ることで、出生数の向上に結びつけます。

○明日を担う子どもたちを地域の宝として町ぐるみで育てていくため、教育は学校だけで行われるものではないという認識にたち、学校、家庭、地域が一体となった子どもの教育を充実させていきます。

○平成 32 年の町の年少人口は平成 27 年の約 95.5%に下がるという推計（社人研・日本創成会議とも）がなされていますが、施策による総合的な効果として子ども（0～18 歳）の減少に歯止めをかけ、平成 31 年時点で平成 27 年の約 97.6%（人口ビジョン ケース５推計に基づく）の人数を確保することを数値目標にします。

数値目標		
子どもの数（0～18 歳）	1,390 人以上（H31）	住民基本台帳

② 具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

3-1　結婚の支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
年間の婚姻数	平均 42 件（H21～26） →平均 44 件（H27～31）	町調査 （届け出数）

施策名	施策の概要
結婚支援事業	結婚祝金の支給。独自デザインの婚姻届・出生届やお祝いプレートの作成を行い、町で結婚する人を応援する。
出会いの場の創出	町内に多くの独身者がいるが、出会いの場が少ないことが考えられる。お見合いパーティーやセミナーの開催など出会いの場を創出することで、結婚を支援する。

3-2　出産の支援

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
出生数	５年で計 385 人（H27～H31）	住民基本台帳

施策名	施策の概要
特定不妊治療費等助成事業	出産希望者に対し特定不妊治療費等の助成を行う。
妊娠・出産・子育てに対する相談・支援事業	妊娠・出産・子育ての一貫した窓口を設置（ワンストップサービスの提供）して、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援を行う。

3-3　子育て世帯の支援と子育て環境整備

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
子どもの数（0～18 歳）	1,390 人以上（H31）	住民基本台帳

施策名	施策の概要
学童保育運営事業	豊郷小学校・日栄小学校で放課後児童クラブにより学童保育を実施する。
福祉医療費助成事業	福祉医療費助成を行うことによって子育て世代の経済的負担を軽減する。
乳児生活応援助成事業	乳児のいる家庭を対象に、おむつ等の購入に係る費用の助成を行う。
小中学校入学助成事業	小中学校新１年生の保護者へ入学準備金祝金を支給する。
給食費助成事業	小中学校の給食費に対し助成を行い、子育て世代の経済的負担を軽減する。
子育て支援センター運営事業	子育て支援センターと関係機関との連携を深める。また、児童虐待などの対応窓口として、保護者が子育ての第一義的役割を果たせるような体制づくりを進める。

3-4　子どもの教育の充実

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
児童の１か月の読書量	１人当たり　4.6 冊（H27）→８冊（H31）	町調査

施策名	施策の概要
学ぶ力育成推進事業	子どもたちが、本物を体験することを通じて将来の目標を描き、自らが学ぶ姿勢、学び方を知り、確かな学力を身につけられる取り組みを進める。また「家庭学習の手引き」を作成し、保護者に取り組みを周知して協力体制を築く。
小学校外国語活動推進事業	保育園、幼稚園、小学校で、ＡＬＴとゲームや英語の歌等を通じて、楽しく英語を学び、生きた英語を身につけ、グローバル社会に対応する教育を行う。
「本大好き　豊郷ッ子」推進事業（子ども読書活動推進事業）	読書を通じて表現力を高め豊かな子どもの育成に努める。学校、図書館と連携しながら読書活動の推進を図る。
部活動推進事業	部活動を通じて、集中力、忍耐力等を身につけ、文武両道を目指す。
先人の遺徳を学ぶ事業	先人が築き上げた総合商社、丸紅㈱大阪支社を、小学校６年生の校外学習として訪問し、先人の遺徳を学習する機会とする。

（５）基本目標４：資源を活かした交流と、いきいき安心な暮らしづくりを進める

① 基本的な方向

○町内在住者が豊郷町の魅力を再認識できるよう、他の町にはない多様な体験の提供や、町の文化・歴史を次代へ残していく取り組みを行います。
○町に住む人が楽しみ、交流できる機会を充実させ、町への誇りと愛着を醸成します。
○周辺地域とも連携しながら安全・安心・便利な暮らしをつくることで、豊郷町を「住み続けたいまち」「住んでみたいまち」にしていきます。

数値目標		
町での居住継続を希望する人の割合	H27 調査時の割合（76.8%）を超えること（H31）	町民アンケート

② 具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

4-1 「豊郷ならではの体験」の提供

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
江州音頭保存会　会員数	H31 時点で 30 人を維持すること	町調査

施策名	施策の概要
江州音頭普及啓発事業	江州音頭の普及啓発のため、町内企業や近隣大学、町民等から若年女性メンバーを募集し、ご当地アイドルを結成する。また、小学校から江州音頭に触れることにより、江州音頭の継承を行う。これらの取り組みで、江州音頭に関わり、興味を持つ若い人を増やし、町の誇るべき文化を次世代へつなげていく。
町史編纂事業	町の「歴史」「文化」「風俗」などの財産を未来に伝えるものとして町史を編纂整備する。
いきがい協働センター 「子ども職業体験プログラム」	夏休み中、「とよ坊かぼちゃん」出荷作業を小学生・中学生が職業体験できるプログラムを開発する。生産農家に協力依頼し収穫体験を行う。

4-2　ふれあい、楽しむ場の創出

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
「いきがい協働センター」サロン年間利用回数	38 回（H26）→50 回（H31）	町調査

施策名	施策の概要
いきがい協働センター利用事業	地元で収穫された農産物を使った加工品作りや、高齢者を対象としたサロンの開催。職員の配置により施設の管理と高齢者のいきがいづくりにつながる取り組みを行う。
とよさと収穫祭	児童生徒や町民の方で、野菜や花に関心のある人に集まってもらい、みんなで育て、隣保館フェスティバル等を利用した収穫祭を計画し、町民の交流を深める。

4-3　安全・安心な暮らしづくり

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
防災訓練参加者数	1,876 人（H27）→2,300 人（H31）	町調査
自治会での 防災士資格取得者数	５年間で計４名	町調査

施策名	施策の概要
地域防災力向上事業	町民一人ひとりの防災への意識や知識を高めるとともに、各自治会の方に防災士等の資格を取得してもらい、自助・共助・公助を原則として防災力を高める事業を実施する。
老朽化施設エコ修繕事業	老朽化した施設（防犯灯）の改修や更新を計画的に行い、健康で安全な環境に配慮した修繕を行う。
高齢者あったか給食事業	いきがい協働センターとの連携により、定期的な食事の提供で高齢者のとじこもりや孤食を防ぎ、健康維持を図る。
生きがいデイサービス事業	健康づくりを進めるため、運動機会を増やす必要器具等の導入を検討、実施していく。
地域見守り事業	各自が、地域の人を自分たちで守る意識を高めてもらう啓発を重点的に行うとともに、それぞれの字で見守り活動の核となる組織づくりを進める取り組みを行う。

キャラバン・メイト、 サポーターの拡充	高齢者介護問題への対応として、キャラバン・メイト、サポーターを増やし、認知症を理解してもらう活動を広める。家族だけで認知症問題を抱え込まず、話を聞いてもらい、話せる場の提供を行い、豊郷が高齢者も安心して住める、思いやりのある町であることをアピールする。

4-4　地域の利便性向上

重要業績評価指標（ＫＰＩ）		
「愛のりタクシー」 １市４町の年間利用者数	H26 実績（12,514 人）を超える（H30）	広域調査

施策名	施策の概要
愛のりタクシー運行事業	湖東定住自立圏域全体の公共交通の利便性向上のため、公共交通機関として「愛のりタクシー」を運行し、駅や病院等への移動を支援する。

第４章　豊郷町総合戦略の推進体制

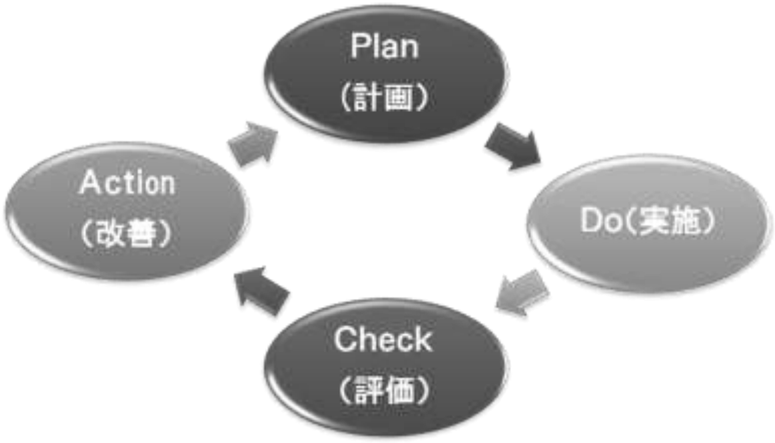
（１）ＰＤＣＡサイクルの導入

豊郷町総合戦略で掲げる目標を実現するためには、常に進捗や効果の検証を行い次の行動につなげるPDCA サイクルを確立することが必要です。

具体的には、策定した施策を着実に実施していくとともに、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していくことになります。

PDCA とは、PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の４つの視点をプロセスの中に取り込み、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことです。

豊郷町においても、地域の課題に基づいて設定された（PLAN）、総合戦略の推進を図り（DO）、検証し（CHECK）、改善する（ACTION）、PDCA サイクルを確立することが重要です。



（２）地域間の連携推進

国は、地方公共団体間の広域連携に関し、経済成長のけん引などの機能を持たせる「連携中枢都市圏」の形成を促進し、財政面やデータ分析面での支援等を行っています。併せて、従来からの定住自立圏の形成を進め、地域連携による経済・生活圏の形成を推進しています。

豊郷町では既に、中心市である彦根市との間で湖東定住自立圏形成協定を締結し、愛荘町、甲良町、多賀町とともに地域連携の施策を活用しつつ、地域間の広域連携を積極的に進めることとしています。総合戦略においても、必要に応じて、広域連携を視野に入れながら施策の推進にあたります。

（３）施策の進捗管理体制と外部有識者の参画

総合戦略の実施にあたっては、行政（町）のみならず、町民、産業界・大学・金融機関・労働団体・マスメディア（産官学金労言）が連携し効果的な施策が実施されるよう、それぞれの代表も加わった形で、PDCA サイクルに基づく効果検証を行うことが重要です。

施策を効果的、一体的に推進するため、進捗管理・施策検討の組織として、産官学金労言に加え、各分野の町民代表からなる「豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会」を設置しています。

（４）進捗状況の点検

総合戦略は、データによる施策効果検証を行い、適宜に改善を行うことが必要です。

産業や人口、社会インフラ等の現状や将来の動向に関して必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなどの特性に即した課題等を踏まえて施策を実施していくことが求められていることから、以下の方針により進捗状況の点検と適宜の見直しを進めます。

- 評価主体：町民・外部有識者・議会

妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで評価を行うのではなく、「豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会」などを活用して、外部有識者等の参画を得る。

議会と執行部が車の両輪となって推進することが重要であることから、総合戦略の策定段階や効果検証の段階において、十分な審議が行われるようにする。

- 評価対象：設定した数値目標等を基とする

基本目標で設定した数値目標、施策で設定した KPI 等を基に、実施した施策・事業の効果を検証する。

- 評価する時期：毎年度末から年度当初にかけて評価する

毎年、年度末から年度当初にかけて実施状況と成果を検証の上、必要に応じて施策・事業を改訂・検討する。

資　料

豊郷町まち・ひと・しごと創生推進委員会　委員

氏　名	所　属	備　考	分　野
増田　佳昭	滋賀県立大学	【委員長】 滋賀県立大学　環境科学部　教授	学　識
岡村　博之	豊郷町観光協会	【副委員長】 (株)岡村本家　代表取締役	産　業
橋本　成行	東びわこ農業協同組合	東びわこ農協　常務理事	産　業
山田　博次	豊郷町商工会	(有)ヤマダ油脂　代表取締役	産　業
市川　晴英	株式会社　SOLEPRO	(株)SOLEPRO　代表取締役	産　業
瀬川　功	滋賀中央信用金庫	滋賀中央信用金庫　豊郷支店長	金　融
仁賀　勝也	株式会社　滋賀銀行	(株)滋賀銀行　豊郷支店長	金　融
長﨑　弘法	彦根公共職業安定所	彦根公共職業安定所長	官　庁
川場　剛	PTA 連絡協議会	父親代表	子育て世代
岩橋　静香	PTA 連絡協議会	母親代表	子育て世代
北川　和利	豊郷町議会代表		住　民
藤野　洋一	区長会代表	高野瀬区長	住　民
松宮　春美	公募委員		住　民
浦上　直斗	公募委員		住　民
佐藤　公彦	公益財団法人豊郷病院	豊郷病院　名誉院長	福　祉
加藤　清	老人クラブ連合会	老人クラブ連合会長	福　祉

（敬称略・順不同）

豊郷町まち・ひと・しごと創生　人口ビジョン・総合戦略

発行：豊郷町

編集：総務企画課　企画調整係

住所：〒529-1169　滋賀県犬上郡豊郷町石畑 375

電話：0749-35-8112